

「がんを知り がんと共に生きる」

～全ての県民の参療を目指して～

- ◇ がんに関する正しい知識習得から、がんになってしまった後の生活支援、県民自らががん医療に主体的に参画する「参療」の推進などを実施した第四次計画が終期を迎え、新たに第五次計画（令和 6 ～11 年度）がスタートします。
- ◇ 日本人の 2 人に 1 人は一生に一度はがんにかかるといわれている現在、がんを意識せずに生きていくことは残念ながらできません。行政や医療従事者は、がん対策を進めていくうえで、これまで以上に様々な取組みを進めていきますが、それに加えて、県民全員が、「いつかは、自分自身や周囲の人が、がんになるかもしれない」という意識を持ち、がんについて積極的に考えることが重要です。
- ◇ 「がんと共に生きる」のは、がん患者に限った話ではありません。健康な人はがんにならないよう、もしくはがんを早期発見できるよう、日常生活においてがん予防やがん検診受診を意識することが大切です。また、がん患者は自らが望む療養生活の実現のため、治療法や療養場所を主体的に選択することができます。
- ◇ がんは完全に予防できる病気ではありませんが、自らの行動次第で未来を変えることができる病気です。全ての県民が自らががんに関する正しい知識を習得し、積極的にがん医療に参画（参療）することで、がんを必要以上に恐れず、自分らしい日常生活を失わず、がんと共に生きることができるようになります。第五次計画では、そのような社会の実現を目指し、本スローガンをここに掲げます。

「がんを知り がんに向き合う」 ～県民の参療を目指して～

- ◇ がんに関する正しい知識習得から、がんになってしまった後の生活支援、県民自らががん医療に主体的に参画する「参療」の推進などを実施した第四次計画が終期を迎え、新たに第五次計画（令和6～11年度）がスタートします。
- ◇ 日本人の2人に1人は一生に一度はがんにかかるといわれている現在、がんを意識せずに生きていくことは残念ながらできません。行政や医療従事者は、がん対策を進めていくうえで、これまで以上に様々な取組みを進めていきますが、それに加えて、県民一人ひとりが、「いつかは、自分自身や周囲の人が、がんになるかもしれない」という意識を持ち、積極的にがんについて知り、がんに向き合うことが大切です。
- ◇ がんは、日常生活においてがんのリスク要因を避けることで、ある程度の予防が可能です。また、定期的ながん検診を受診することで、例えがんになったとしても早期に発見できれば、その後、長期にわたって自分らしい生活を送ることもできます。そのためには、自らががんに関する正しい知識を身につけるべく、積極的に行動することが必要です。
- ◇ 本スローガンは、第四次計画策定時に掲げたものですが、現在もその重要性は変わりません。第五次計画においても、引き続き、県民1人1人ががんを知り、予防・検診・医療など、様々な場面で主体的かつ積極的に取り組むこと、すなわち「参療」を推進することを宣言し、本スローガンを掲げます。